

第6回学術大会を終えて

大会長

遠藤 安彦（宮城学院女子大学教授）

朝夕に秋冷を感じるようになり、あの暑い長～い夏の日がやっと終わったと実感されるこのごろです。第6回大会に参加された皆様には、その後如何お過ごしでいらっしゃるでしょうか？冷房の少ない東北の夏の暑さを、思い出していただければ幸いです。

最初に東北支部に打診があって「支部体制がまだ……」とお返ししての2度目の打診を、「今度は断れない！」として受けた日から、「いいものを開催しよう」とする東北支部の熱い戦いと固いチームワーク作りが始まったのです。そしてそれは8月27日（日）閉会式で、成功の大きな喜びのため息として会場に流れたのです。

2千人前後の会員が集まることの出来る会場を見つけることが先決で、収容150～250名のキャパを8から10室持つ施設は今回の宮城学院しかなく、交渉の結果OKで準備が始まったものの、大学キャンパスは文部科学省から急の耐震工事とアスベスト除去を迫られ、開始時期の一週繰り上げ！と、開催期間中の一時工事中断！という、ご迷惑のかけ通しで、会場校の責任者としても冷や汗の綱渡りでした。実行委員会の特に会場担当委員は、さぞかし大変だったことでしょう。

肝腎の大会テーマ「音楽療法における感と知」については如何でしたでしょうか？パヴリチェヴィック先生と多田房代先生の講演も含めて、参加された皆様からの声や感想をお待ちしております。また研究発表では、全体の時間の流れの調整には手間取りましたが、最初からの計画通り、発表時間の延長を実施しました。まだまだ改革の余地があるところと思います。

講習会については、実に多彩な内容を機能的に並べて、参加学習される方々の目的と意欲を引き出し満ちそうと努力しました。講師の先生方、ご苦労様でした。

大会長として最初からストレスとなっていたのは「大会長講演」です。ある時から「大会長コンサート」

とさせて頂きましたが、この学会でどんなコンサートが……？！と1年も悩んだ結果、「和太鼓とピアノ」のコラボ作品の作曲でした。当日は、作品よりも太鼓の演奏にアンコールが飛び交い、ストレスは一気に吹き飛んだのです。ご静聴有り難うございました。

実行委員会の組織づくりの苦労は、終わって初めてリセットされるものの、寿命の縮む思い幾たびでした。これを良い経験とするか否かは評価の分かれるところですが、多くの支部会員、特に支部事務局のある岩手県と開催地宮城県在住の多くの会員の方々のボランティアには感激し、感謝を惜しみません。この結果は、これからの支部運営にきっと生きていくでしょう。

千七百余名の大会参加者の皆様に、多感謝！！有り難うございました。



第7回日本音楽療法学会学術大会に向けて—第一次案内—

大会長 久村 正也

秋もようやく深まってまいりました。会員の皆様におかれましては、お元気でご活躍のことと拝察申し上げます。

このたび、第7回日本音楽療法学会学術大会のお世話をさせて頂くことになりました北海道支部の久村正也でございます。

貴重な紙面をお借りして、第7回札幌大会の概略を報告させていただきます。

[大会開催決定に至るまで]

第7回大会は大会未開催支部の担当ということから、予てより信越・北陸支部、四国支部、九州・沖縄支部そして北海道支部が候補に挙げられておりました。2005年7月の第15回理事会でこの議題が討議され、席上、他の3支部から諸般の事情による開催不可能の報告があり、北海道支部がお引き受けすることになりました。当時設立3年目、会員数200名に満たない小支部にとっては荷の重い役と思いましたが、理事会をはじめ関係者皆様の全面的なご支援を頂くという条件のもとで、学会発展のために札幌開催を決意させて頂きました。

[開催日時及び会場]

日時：2007年9月7日（金）講習会
8日（土）学術大会第1日目
懇親会（夜）
9日（日）学術大会第2日目

会場：札幌コンベンションセンター
札幌市白石区東札幌6条1丁目
TEL：011-817-1010
地下鉄「東札幌」駅から徒歩7分

[メインテーマ：音楽療法の学際性と全人性]

—ひとと音楽との対話—

第7回大会のメインテーマを、〈音楽療法の学際性と全人性—ひとと音楽との対話—〉とさせて頂きました。

音楽療法は広義には心理療法の一技法であり、病む人びとへの癒し技法と考えられます。

他の心理療法、例えば行動療法は行動変容技法を手段とし、自律訓練法は自己催眠を糧とするように、音楽療法は“音楽”を武器として癒し活動を展開しますが、“音楽”だけでは完結しにくいのが現状であろうと思われます。“療法”というものは、どれもそうですが、その療法ひとつで完遂できるものではありません。何故ならば、病む人びとは病者であると同時に、生活者であり、有機体であり、理屈を唱え、感情をもった複雑系の存在、つまり人間であるからです。したがって、真の癒しのためには、音楽とともに医学、心理学、社会学、行動学、倫理学、教育学、経済学、法学などさまざまな

領域との連携が求められます。つまり、学際的な協力があって初めて音楽療法の底知れぬ力が発揮されるといえましょう。

この考え方は自然に、音楽療法の全人性という概念をもたらします。病む人びとをまるごと、すなわち、全人的存在として把握し、理解し、援助することがこれからの音楽療法士にとって欠かせない心構えということになるでしょう。

この大会では、音楽療法という小さなコップのなかに留まることなく、一心理療法としての立場から多くの他分野との治療的連携を育むキッカケをつくりたいと考えております。

プログラムは現在のところ企画の段階であります。日本心身医学会理事長 中井吉英教授（関西医大）の特別講演、バーバラ・ウイラー教授（ルイスビル大学）およびキャロライン・ケニー教授（アンティオーク大学）両氏の基調講演などが予定されております。

[札幌へのおさそい]

北海道はおそらく日本で最も四季のはっきりしている地域でしょう。四季それぞれに趣が巧みに変化します。中でも、9月は北海道の快適季節であり、絶好の観光シーズンであります。さらに、北海道ならではの海の味覚、山の味覚がいっせいに勢揃いする季節でもあります。

自然の中の大都会「札幌」の爽やかな秋を真摯な学問とともにご堪能頂き、明日からの活力につなげて頂きたいと願っております。

[第7回日本音楽療法学会学術大会実行委員会]

大会組織

大会長	久村 正也
実行委員長	郷久 鉦二
事務局 長	安藤 妙子
学術研究委員長	郷久 鉦二
講習会企画委員長	後久 清子
査読委員長	鈴木はるみ
大会役員	今井 常晶
同	呉竹 仁史
同	関谷 正子
同	中山ヒサ子
同	坂野 雄二

—他—

[大会事務局]

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号
医療法人東札幌病院内
第7回日本音楽療法学会学術大会事務局
TEL：011-812-2311（内線158）

面接審査における実技試験導入について

資格認定委員会

日本音楽療法学会認定音楽療法士の審査に関する認定規則書に「音楽療法に使っている音楽を実際を使って見せてもらうこともある。…」と明記されています。2006年度から認定音楽療法士の面接審査の中で、より適切な審査をするために、音楽療法実技試験が下記の通り実施されます。

記

1. 方法

音楽療法に使っている音楽の表現として、以下のAまたはBの方法のどちらか1つを選択して、当日の面接審査の中で実演をしてください。

- A. 提出された事例レポートで使われている音楽を再現してください。(即興演奏など演奏の形式は自由です)
- B. 下記の提示曲目から選択し、使用する臨床場面を述べてから、その場面に即した弾き歌い、楽器演奏の実演をしてください。

選択曲目：24曲 五十音順（作詞者・作曲者）

赤とんぼ（三木露風・山田耕筰）、
 Yesterday（ポール・マッカートニー）、
 上を向いて歩こう（永六輔・中村八大）、
 大きな栗の木の下で（KOTOKO・中沢伴行）、
 大きなたいこ（小林純一・中田喜直）、
 おもちゃのチャチャチャ（野坂昭如・越部信義）、
 川の流れのように（秋元康・見岳章）、
 荒城の月（土井晩翠・滝廉太郎）、

サンタ・ルチア（小松清・ナポリ民謡）、
 さんぽ（トトロ）（中川季枝子・久石譲）、
 時代（中島みゆき詞・曲）、
 好きになった人（白鳥朝詠・市川昭介）、
 世界に一つだけの花（槇原敬之詞・曲）、
 旅の夜風（西条八十・万城目正）、
 小さな世界（R.M.シャーマン・若名和子和詞）、
 翼をください（山上路夫・村井邦彦）、
 東京音頭（西条八十・中山晋平）、
 涙そうそう（森山良子・BEGIN）、
 野ばら（シューベルト、ウェルナー）、
 瞳を閉じて（永井真人詞・曲）、
 星影のワルツ（白鳥園枝・遠藤実）、
 真っ赤な秋（薩摩忠・小林秀雄）、
 みかんの花咲く丘（藤省吾・海沼実）、
 湯の町エレジー（野村俊夫・古賀政男）

2. 会場に用意されている楽器：キーボード

各面接会場には、61鍵盤（タッチレスポンス付き・サステインペダル付き）キーボードが用意されています。（ピアノの用意はありません）

3. 持ち込み楽器：携行可能なものに限り臨床で使用されている楽器を持ち込むことは可能です。（自動伴奏装置は除く）

面接会場に調弦や音出しをしていただくための部屋は用意できません。

4. 楽譜：使用する楽譜は各自でご用意ください。

以上

■ 日本音楽療法学会 研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会

委員長 智田 邦徳

今回の企画内容は、前回の反省および300通余りのアンケート結果から「もっと脳のことを知りたい」という要望が多く寄せられましたので、その研究の第一人者であられる久保田競先生に「音楽の刺激が及ぼす脳への影響」というテーマで講演をしていただきます。つづいて音楽療法の結果が脳のどの部分にどのような変化があるのかということ「音楽療法の効果と脳の変化」のテーマで、佐治順子先生と高橋多喜子先生から症例を発表していただきます。また最近、音楽療法士の質の向上という声が盛んに聞かれますが、何をもちて質が向上したと言えるのか？どのような状態が質が高い音楽療法士と言えるのか？会員の多くは各々が漠然とイメージを描いているのではないのでしょうか。研修・講習委員会では音楽療法士としての質を問うには、まず自分を知ることが基本であるということ意見が一致し、自分を知る方法の一つとして、交流分析学会理事長の杉田峰康先生に講師をお願いしました。そして、アンケートの中で最も要望が強かった「感覚統合と音楽療法の接点」では、前回講師の木村順先生に再度お願いすることにいたしました。

2007年、月・日・時間	内容	講師・司会
3月3日(土) 12:00	受付開始	
13:00~13:20	開会挨拶 ガイダンス、倫理のガイドライン	委員長：智田 邦徳 事務局、倫理委員会
13:30~15:00	音楽の刺激が及ぼす脳への影響	講師：久保田 競 (日本福祉大学)
15:15~16:15	症例発表 認知症高齢者音楽療法 生理的評価を用いて(1)	事例提供者：佐治 順子 (宮城大学)
16:20~17:20	症例発表 認知症高齢者音楽療法 生理的評価を用いて(2)	事例提供者：高橋 多喜子 (茨城音楽専門学校)
3月4日(日) 9:00	受付開始	
9:30~9:50	ガイダンス、倫理のガイドライン	事務局、倫理委員会
10:00~12:00	音楽療法士の資質向上 交流分析から見た自分を知る方法	講師：杉田 峰康 (九州ルーテル大学大学院)
13:00~16:30	感覚統合と音楽療法の接点	講師：木村 順 (療育塾ドリームタイム)
16:35~16:40	閉会挨拶	委員長：智田 邦徳

* 講師の都合により講師を変更することがあります。その時は悪しからずご了承ください。

北海道支部 — 近況 —

支部長 久村 正也

全国の会員の皆様、こんにちは。

北海道支部の現況をご紹介します。

設立4年目の当支部は、会員数200余名の小粒ながら、山椒のようにシャープな切れ味の学術団体に成長しつつあります。

支部主催の研修会は年2回開催され、いずれも一般講演、教育講演、特別講演、シンポジウム、ワークショップなどを巧みに組み合わせた密度の濃い内容を心がけ、さらに音楽療法士に必要な医学知識や他の心理療法の学習講座を必ずとり入れるなどして、視野の広い全人的な音楽療法士の育成を目指しております。幸い、この方針は受講者に好意的に受けとめられております。

ちなみに、今年度の研修会は支部総会に併せて5月28日、および10月22日に開催されました。

支部ニューズレターは年3回発行し、学会全体の動向、支部の会員動静、支部評議員会議事録、研修会案内などを掲載し、会員相互のネットワークづくりに大きく寄与しております。

支部ホームページの運営も順調で、アクセス回数が増加してきており、うれしい限りです。

小さな支部にとって大きな関心事は、当然のことながら、来年9月に当支部が主管する第7回学術大会（支部では、札幌大会と名づけています）であり、大会成功にむけて全会員が奮励しているところであります。

大会成功には、支部の鋭意努力に加えて全国の会員皆様の暖かいご支援、ご協力が不可欠でありますので、どうぞ宜しくお願い致します。

私ども支部会員一同、皆様と札幌でお会いできることを、心から楽しみにしております。



東北支部 — 近況 —

事務局長 智田 邦徳

去る8月25日から仙台市宮城学院女子大学で開催された第6回日本音楽療法学会学術大会も無事に終了し、遠藤安彦大会長をはじめ我々実行委員全員が大役を果たせた満足感と安堵感でいっぱいです。

会期中は多くの皆様からねぎらっていただき、また終了後には大会運営へのお褒めの言葉を頂戴しました。多大なるご協力とご理解に心より感謝いたします。

今年度は全国大会の忙しさもあり、支部大会は規模を小さくして開催いたします。

11月23日木曜日、仙台市メディアテイクにて若尾裕氏を講師に迎えての講演と総会を一日で行います。

詳細は東北支部事務局までお問い合わせ下さい。



関東支部 — 近況 —

事務局長 穴戸幽香里

第五回日本音楽療法学会関東支部地方大会・講習会（宇佐川浩大会長）を12月2日（土）3日（日）の2日間にわたって千葉市海浜幕張のOVTA（海外職業訓練協会）で開催予定です。

今大会のテーマは「音楽療法の研究法を探る」で初日の講習会は地元の教育関係者や施設関係者も招いた特別枠も3コマ用意し、合計3コース9コマの講習会を午後から予定しています。

2日目は研究法に関するシンポジウム、ショートレクチャーそして対談等を予定しております。

同時に午前より研究発表とポスター発表を並行して行います。今回も会員から沢山の応募があり約60題の発表が予定されています。支部会員のみならず全国からの参加を歓迎いたします。

当日参加も可能ですので是非お越しいただければと思います。

関東支部のホームページにつきましては、開設以来更新がされず、ご不便をかけ申し訳ございませんでした。

このたび、新しいサーバーを設け、専門家や広報のホームページ担当の猪之良先生そして事務局も加わりリニューアルすることで準備を着々と進めてまいりました。10月下旬にはオープンできる予定です。

今後は定期的に更新し、会員向けにいち早く情報を提供させていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

信越・北陸支部 ——— 近 況 ———

支部長 北本 福美

①第4回学術大会報告：大会長：海老原直邦

2006年6月24日（土）～25日（日）に富山国際会議場にて、「音楽は魂と響き合う—音楽療法の根源を求めて」という大会テーマのもと学術大会が開催され、参加者数が333名（学会員101名・一般参加217名・その他講師等15名）に及ぶ盛会となった。

レクチャーコンサート・公開講演会・シンポジウム・講習会・研究発表などを通して、音楽が心を深く感動させるパワーを改めて実感し、音楽療法の根源について多面的に考える機会が得られた。また、回収されたアンケートからも、音楽のもつスピリチュアルな癒しの力を一層重要視すべきということが示唆された。

②第5回学術大会の案内：大会長：丸山 敬子

第5回学術大会は、2007年6月2日（土）および3日（日）に、「音楽療法とは何か？—信頼される音楽療法を目指して—」を大会テーマとして新潟市で開催する運びとなった。

音楽療法の保健・医療・福祉・教育などさまざまな現場で注目されているものの、日本においては未だ「発展途上」の領域であり、音楽療法に従事する、あるいは目指している私たちもそれぞれに「発展途上」であり、臨床現場で経験を重ね、エビデンスを求め、前人の足跡を検証しつつ日々を過ごしている。時には悩み、迷い、またある時は感動で胸を熱くしながら…そして、そのような時に必ずや、音楽療法とはいったい何かと自問する。新潟大会では、この問いを今一度考え、信頼される音楽療法の確立に寄与したいと考える。



東海支部 ——— 近 況 ———

支部長 吉田 豊

本年度は東海支部役員が大幅に入れ替わりしました。私自身もその一人ですが、支部運営に当たっては設立当初から役員の固定化を避けたいということもありましたので、前任者をはじめ会員各位のご協力を得ながら、何とか頑張っていこうと思います。

東海支部大会は2007年3月17日（土）、三重県津市の三重大学で行うことが決まりました。過去5回は、愛知、岐阜、静岡の各県を巡り、次回の三重で支部各県を一巡することになります。大会のメインとなる研究発表を充実させ、参加者の資質の向上に資するものとなるよう努めることはもちろんですが、併せて大会運営を通じて、様々な個人が学びあう機会となることを願うところです。

もうひとつ、支部会員の研究発表の機会を増やし、相互の研鑽を深める上で、支部の研究誌を発刊できないか、という声が上がりました。すでに研究誌を発刊しておられる支部に学びながら、自分たちの実情に即した研究誌となるよう、工夫していきたいと思っております。



近畿支部 ——— 近 況 ———

支部長 安本 義正

2006年度の新しい取り組みとして、これまでは希望者の有料購入となっていました近畿音楽療法学会誌を無料配付することになりました。本部からの支部交付金を会員のために有効活用するという観点で、第5巻から支部会員全員に無料配布することが2006年3月の総会で決定されました。会員への重要な情報源として、より一層の内容充実を図っていきたく願っています。

さて、第6回近畿学術大会（研究発表・講習会）が2007年3月10日（土）11日（日）の両日に同志社女子大学に於いて開催されることも決定され、濱谷紀子大会長、伏見強大会実行委員長、宮島幸子大会事務局長を中心に、支部四役が相談役として加わった大会準備のための実行役員会、さらには、公募実行委員が加わった大会準備のための実行委員会によって、着々と準備が進められています。

近畿支部も充実発展と同時に、様々な検討課題もあります。今後の支部運営につきましては、本部の活動方針に沿って、支部役員・委員に過度な負担をかけないような健全な運営を行って参りたいと思っております。近畿支部が会員皆様のための、そして何よりも音楽療法を必要とされる方々のための支部として発展していきますように、今後とも皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い致します。

中国支部 — 近況 —

支部長 武田千代美

中国支部は、去る7月29日、30日の両日、くらしき作陽大学（岡山県倉敷市）において、第6回支部大会・第8回講習会を開催しました。中国地方はこの日に梅雨明けとなり、夏本番の暑さの中でしたが、盛会のうちに終わることができました。講習会は、「広汎性発達障害児の行動と心理」「音楽心理学」「音・音楽の力」と題した3講座を企画しました。また大会には遠山文吉先生をお迎えし、「障害のある方々への音楽療法」についてご講演頂きました。他、2題のシンポジウムもあり、評価について、他職種との連携についてなど、活発に意見が述べられました。

今後の予定は、11月26日に第9回講習会を、広島文教女子大学（広島県広島市）にて開催予定です。また、次回の大会は、2007年5月26日、27日に、米子コンベンションセンタービッグシップ（鳥取県米子市）にて開催予定です。多くの皆様のご参加をお待ちいたしております。

中国支部は、年2回の講習会開催、中国5県持ち回りでの大会開催、また音楽療法についての記事を掲載したニュースレターの発行など、会員の立場に立って活発に活動しております。今後も支部ならではの特性を活かしながら、行動力をもって活動して行きたいと考えております。



四国支部 — 近況 —

支部長 山本 恵子

2004年8月、設立総会が台風直撃の中行われ、四国支部が設立されました。支部をどのように運営するのかの議論から始まり、「ガラス張りで見晴らしのいい運営」「会員に開かれた、会員で運営する、会員のための会」をモットーにと、手探りの状態の中で船出いたしました。日本音楽療法学会本部事務局にも先輩支部の皆様方にも、アドバイスをいただき、あたたかく迎ええていただきました。本当にありがとうございました。評議員一同大いに勇気のわいたことでした。第一回支部大会（香川県：大会長三崎めぐみ）、第二回支部大会（愛媛県：大会長藤井澄子）を終え、このたび第三回支部大会（高知県：大会長山本恵子）を開催いたしました。

第三回支部大会は、高知県で開催され、高知県会員を主体に準備いたしました。高知県19名、愛媛県16名、香川県15名、徳島県8名、四国以外28名と、大会参加者：計86名と四国周辺からも参加いただき熱気あふれる発表研鑽の場となりました。総会におきましては事業報告会計報告・事業案予算案提示がなされ、承認されました。日本音楽療法学会におけるさまざまな懸案事項も、会員一人ひとりが考える機会をと、報告がなされました。

最後に評議員をさせていただきました5名それぞれにありがとうございましたのご挨拶をさせていただき、今期最後の支部大会を終えました。心のネットワークが繋がったかなというところでの期が終わりかけています。今後とも残された日々評議員一同精一杯努めさせていただきます、次の期につなげたいと思っております。



九州・沖縄支部 — 近況 —

支部長 齊藤 雅

九州・沖縄支部においては、学会の健全な発展を望む様々な意見がよせられています。

他支部でできるような役員選挙に関して、特定の個人を誹謗中傷したり、排斥するような不当な選挙運動などは一切行われっておりません。

学会の健全な発展のためには、情報公開が最も重要であるとの意見が多く、それを受けて役員も、理事会、評議員会の更なる情報公開を図るべく努力しています。

国家資格化についても、必要ではあるが、現状では他職種の理解も十分ではなく、社会的にも必要性が認められているとは言いがたく、まだまだ時間をかけて考えるべきという意見が圧倒的です。技術・専門性についても地道なレベルアップを図り、社会へアピールできるようにいっそうの努力を続けたいと考えます。

大会の開催要望については、支部に多人数を収容できる大学を利用できる役員がいないため、引き受けられる状態ではないというのが支部会員の認識である。

学会事務局からのお知らせ

■ 2006年度資格審査を申請された方へ

2006年10月16日までに提出された申請書につきまして現在審査中です。審査結果は11月末日までに通知されます。書類審査合格者は面接試験（12月16日（土）10時～16時、または12月17日（日）10時～16時のいずれか1日、約15分間）が東京にて実施されます。（3ページ参照）

最終審査結果は2007年2月初旬に通知されます。

■ 2006年度資格更新審査および猶予を申請された方へ

2006年10月31日までに提出された更新及び猶予申請の審査結果は2007年2月初旬に通知されます。

■ 「資格認定規則（申請書）」および「資格更新規則（申請書）」の取り寄せについて

240円切手を貼付した返信用封筒（A4サイズ、宛先明記）と500円の定額為替（郵便局にて購入）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

※「音楽療法士認定規則」の配布は会員限定ですので、非会員の方は入会手続き完了後の取り寄せとなります。

※資格更新の該当の方には当該年度の5月上旬、全員に事務局から送付しますので取り寄せは不要ですが、早く入用の方は上記認定規則と同じ方法でお取り寄せください。

■ 「カリキュラムガイドライン01」の取り寄せについて

120円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■ 「抄録の書き方」が発行されました（2006年8月23日発行）

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されました。（B5版76ページ）
購入を希望される方は240円切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）と1,000円の定額為替（郵便局にて購入）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■ 「音楽療法士（補）試験問題解説集」の取り寄せについて

2001年度から2005年度まで過去5回おこなわれました音楽療法士（補）認定試験の試験問題解説集が発行されています。1冊1,000円ですので、購入を希望される方は、希望の試験問題解説集の年度と冊数を明記の上で、送料分の切手を貼付した返信用封筒（B5サイズ、宛先明記）と冊数分の合計金額の定額為替（郵便局にて購入、1,000円×冊数）を同封して、学会事務局へお申し込みください。なお送料は1冊200円、2冊240円、3～5冊390円です。

■ 学会誌バックナンバーのお求めについて

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会及び臨床音楽療法協会の学会誌のバックナンバー購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いいたします。昨2005年度分未納の方はこのまま放置されますと2007年3月末にて会費未納退会となります。この場合再入会はできません。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円

購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口

振込先 郵便振替口座 ○ 加入者名：日本音楽療法学会

○ 口座番号：00120-9-657711

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載することになりました。有償のものに限定しますが、常勤・非常勤は問いませんので、求人情報を事務局へお寄せください。

これは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。